

旅行産業経営塾修了プレゼンテーション  
～ウィズコロナ・アフターコロナ時代の(2)旅行商品

# 東京都東村山市～ 感染症を考える場として

## おまけ資料

ハンセン病について調べたもの  
銀河鉄道株式会社の写真少々

大西 雅美 (京王観光(株)立川支店 勤務)

# らい菌とハンセン病

らい菌は末梢神経内に寄生して慢性の感染症であるハンセン病を引き起こします。かつては「らい病」と呼ばれていましたが、古くからの偏見に結びついた呼称であるため、1873年にらい菌を発見したノルウェーのハンセン博士にちなんで「ハンセン病」とよばれるようになりました。らい菌の感染力は極めて弱く、感染しても発症することは稀であり、体力や抵抗力が非常に低下したときに発症します。発症するとらい菌によって末梢神経や皮膚が侵され、治療しないと病気が進み顔や手足が変形する後遺症が残る場合も多くあります。この病気が極めてゆっくり進行することや同一家族内で発症することが多いことから、遺伝病という誤解も生じました。

以前は発症すると不治の病とされていましたが、有効な抗菌剤が開発され、  
(中略)

抗菌剤による治療を行えば、ハンセン病の進行は抑えられますが、すでに障害を受けた神経や体の変形を元に戻すことはできません。

それだけに、早期発見と早期治療が非常に重要です。

研成社『細菌の手帳』  
(田爪正氣・築地真実-著)より抜粋

# ハンセン病患者への隔離や差別

1900年代、ハンセン病はコレラやペストとおなじような恐ろしい伝染病と考えられていました。1907年(明治40年)、「癩(らい)予防ニ関スル件」が制定され各地を放浪する「浮浪らい」と呼ばれる患者さんの収容が始まりました。この法律は、1931年(昭和6年)成立の「癩(らい)予防法」へ引き継がれます。国立の療養所が各地に建設され、すべての患者さんの強制隔離が進められていきました。「癩予防法」は、1953年(昭和28年)に「らい予防法」として改正されます。しかし、この法律には大きな問題点がありました。それは、薬で治るにもかかわらず(※1943年(昭和18年)、アメリカで『プロミン』という薬の有効性が判明し、日本でも1947年(昭和22年)からプロミンによるハンセン病の治療が始まりました)強制隔離を続け、対処規定が設けられなかったことです。それは、一度療養所に入所したら一生そこから出ることができないことを意味していました。1996年(平成8年)、ようやく「らい予防法」が廃止されました(以下略)

国立ハンセン病資料館配布資料

『-希望ある明日へ向けて一知ってほしい、ハンセン病のこと。』より抜粋

# 銀河鉄道株式会社

インターネットで、「銀河鉄道バス」と検索すると、【夢だけで作ったバス会社】というキャッチコピーとホームページへのリンクが表示されます。

子供のころからバスが大好きな現社長が、1999年(平成11年)に東村山市に設立したバス会社です。社名は設立年から、「銀河鉄道999」にヒントを得てつけたそうです。

(銀河鉄道ホームページより要約)



社長自ら運転することもある、社長のお気に入りのレトロバス(貸切バス)を見せていただきました。エアコンが付いておらず、利用する季節を考慮しなくてはなりません、平均して月に一度は利用されているとのこと。

撮影:大西雅美